

# コロナ禍における信州大学アドミッションセンターの入試広報活動

一之瀬 博, 木村 建, 海尻 賢二, 平井 佑樹 (信州大学)

18 歳人口減少の影響が顕著に現れ始めている中、各大学では学生募集に係る入試広報活動が活発に行われている。しかし、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの実績と経験によって培われてきた多くの入試広報活動が実行不能状態となった。この未曾有の事態に対し、各大学はオンラインを中心とした活動にシフトせざるを得ない状況になった。本稿では、2020 年度に信州大学アドミッションセンターが取り組んだ入試広報活動について報告する。その後、新たに実施した Web 進学相談会の参加者の約半数が本学に出席している結果が見られたことなど、一定の効果があったことを示す。

キーワード：入試広報，コロナ禍，オンライン

## 1 はじめに

大学入試センターが公表した「令和 3 年度大学入学共通テスト実施結果の概要」によれば、志願者数は 535,245 人で、大学入試センター試験も含めると、ここ 25 年間で最低の志願者数となった。また、文部科学省が公表した「令和 2 年度学校基本調査」によると、2020 年度の大学入学者数は約 65 万 5 千人で、同年度の全日制・定時制高校や中等教育学校後期課程に所属する生徒の大学志願者数（実人数）が約 66 万 4 千人となり、志願者数に対する入学者数の割合は 96.0%となった。18 歳人口減少の影響が顕著に現れ始め、いよいよ大学全入時代を迎えようとしている。そして、入学者の定員割れを起こしている大学の状況を考えれば、経営が成り立たなくなる大学が今後多くなることが予想される。このような状況下で学生募集に係る入試広報活動を行うためには、受験生の意識・動向を調査し、活動の戦略をより綿密に策定していく必要がある。

各大学における入試広報活動の成果については、多くの報告がある。特に、対面型入試広報の効果について、村松ほか（2008）は、2004～2006 年度に参加した会場形式進学相談会における参加者の約 3 分の 1 が出席したと報告している。また、森川ほか（2021）も、2009～2019 年度の集計結果から、そのような参加者（接触者）の約 3 分の 1 が出席したことを示し、会場形式進学相談会の効果を報告している。一方、高木（2014）は、相談会等の主催者によってはその効果に差異があることを報告している。このような報告は、入試広報活動の戦略を策定する上で参考となる。しかしながら、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来から行われてきた活動がほとんど実行不能となった。

表 1 は、大竹（2019）の「入試広報活動の戦略策定に関する論点整理」で示された入試広報の 4 つの分類を参考に、信州大学アドミッションセンター（以下、本学 AC）の活動をまとめたものである。本学 AC では、第 3 期中期目標期間（2016～2021 年度）に入ってから、所属する教職員の協働体制が大きく変わり、学外関係者と多くのコネクションを持つことを意識して入試広報活動を展開してきた。そのため、本稿でも取り上げる「県外高校教員対象説明会」を新たに企画・実施するなど、長野県外の近隣地域で勤務している高校教員や予備校関係者と、積極的な情報交換を行ってきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、長野県外への出張はもとより、本学 AC がある松本市外への出張も制限される事態となった。

一之瀬ほか（2021）で報告したように、本学の推薦入試 I（現在の学校推薦型選抜 I で大学入学共通テストを課さない入試）志願者の約 30%は、本学の情報を得るために役だったもの第 1 位として、「学部 OC」を挙げていた。ここで挙げられた項目としては最も回答率が高く（次点は「本学ホームページ」で約 25%、その次は「大学案内」で約 10%）、キャンパス内での広報活動は効果的であるという知見があった。そのため、コロナ禍においても、できるだけ対面で入試広報活動を行うよう計画してきた。

本稿では、コロナ禍においても「対面型」入試広報活動の重要性を踏まえた上で、2020 年度に本学 AC が取り組んだ入試広報活動について報告する。また、2020 年度に新たに実施した Web 進学相談会の約半数の参加者が本学へ志願したことなど、新たに取り組んだ入試広報活動も、一定の効果があったことを示す。

表1 信州大学における従来の広報活動と新たな広報活動の対比

分類	従来の広報活動	2020 年度の入試広報活動	
本学で開催するイベント	全学部対象のオープンキャンパス (松本キャンパス)	年 1 回開催 (参加者：約 3,000 名)	規模を小さくして 20 回開催 (1 回あたりの参加者：最大 100 名)
	各学部のオープンキャンパス	原則対面	Web あるいは Web と対面の併用
	キャンパス見学会	各キャンパス	縮小して松本キャンパスのみ
高校で開催するイベント	生徒対象	大学・進学説明会 (対面)	大学・進学説明会 (原則 Web 開催)
	教員対象	大学説明会 (対面)	大学説明会 (原則 Web 開催)
高校を除く学外で開催するイベント	業者主催	学外での大規模説明会 (対面)	Web での説明会や個別進学相談
	本学 AC 主催	県外高校教員対象説明会 (対面)	県外高校教員対象説明会 (対象地域を拡大して Web)
高校訪問	県内を中心とした高校訪問 (年 4 回)	県内を中心とした高校訪問 (年 1 回)	
新規	—	—	Web オープンキャンパスサイトの作成・公開

## 2 本学 AC における 2020 年度の入試広報活動

### 2.1 本学で開催するイベント

本学で開催するイベントとしては、オープンキャンパスやキャンパス見学会がその代表である。本学では、コロナ禍におけるそれらの代替として、2020 年度に Web オープンキャンパスサイトを作成・公開したが、ここでは省略する。

#### 2.1.1 オープンキャンパス (OC)

本学は、8 つの学部が長野県内に点在する、いわゆるタコ足大学である。これは本学の特徴となっているものの、OC をキャンパスごとに実施すると、大学としての一体感が出ない。そこで 2015 年度から、本部がある松本キャンパスでの「信州大学オープンキャンパス in 松本 (全学部合同プログラム)」と各学部 OC の 2 本立てで実施している。

信州大学オープンキャンパス in 松本では、毎年 3,000 名程度が来場していた。そのため、2020 年度は新型コロナウイルス対策を踏まえて、規模を縮小した「ミニ OPEN CAMPUS in 松本 (以下、ミニ OC)」を複数回実施した。表 2 にその概要を示す。ミニ OC は、参加者を事前に把握し参加人数を制限する等の新型コロナウイルス対策に十分配慮した上で、7 月中旬から 10 月中旬までの土日を中心に午前・午後の 2 部制で実施した。すべての回で満員だったと

表 2 2020 年度信州大学ミニ OC in 松本の実施概要

期日	7/18(土), 7/23(祝), 7/26(日), 8/1(土), 8/2(日), 8/23(日), 9/12(土), 9/27(日), 10/11(日), 10/18(日)の 10 日間
時間	各日 10:00～, 13:30～の 2 回開催
場所	松本キャンパス内の大型講義室 1 室
対象	7 月は長野県内在住者のみ参加可能。他は制限なし (事前申込制で各回 100 名まで、同伴者 1 名まで参加可能)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学概要説明 (30 分)</li> <li>・ 学生生活説明 (20 分)</li> <li>・ 令和 3 年度入試概要説明 (20 分)</li> <li>・ キャンパス見学 (30 分)</li> <li>・ 個別進学相談 (キャンパス見学後自由参加)</li> </ul>
新型コロナ対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者は全員マスク着用, 座席指定制</li> <li>・ 講演者はマスクまたはフェイスガードを着用</li> <li>・ 受付時に検温を実施, 37.0 度以上の場合には資料提供のみ (参加不可)</li> <li>・ 窓を開けるなど常時換気の実施, 消毒薬等設置, 各回終了後に机等を消毒</li> <li>・ キャンパス見学 (屋外のみ)</li> <li>・ 個別進学相談ではアクリル板を併用</li> </ul>
対応者	学務部入試課員 3 名と AC 教員 1 名

しても 2,000 名の参加になるため、例年の来場者数には届かないものの、対面で実施することを最優先事項として企画した。

4 月中旬から 5 月下旬まで緊急事態宣言が発令されていたため、ミニ OC については、各方面（国、県、大学）における緊急事態宣言解除後の対応が確定してから告知を行った。そのため、7 月上旬に告知することとなり、7 月中は定員に満たない日もあったが、結果として、北海道から九州までの広範囲から約 1,700 名が参加した。

### 2.1.2 キャンパス見学

キャンパス見学は高校単位で実施しているが、下記の実施可能な内容を本学のホームページで公表した上で、高等学校側の意向や要望を加味して実施している。

- ・ 構内見学 (30 分)
- ・ 希望学部の模擬講義等 (60~90 分)
- ・ キャリア講義 (60 分) ※松本のみ
- ・ 中央図書館見学 (30 分) ※松本のみ
- ・ 学生食堂の利用 (40~50 分)

これらを自由に組み合わせることができるため、高等学校からの申込み内容は、学年や実施時期によって様々である。2020 年度のキャンパス見学では、本学での新型コロナウイルス対策に準じて参加人数を 1 日 40 名以内に制限することや、中央図書館の見学や学生食堂の利用を除外するなどの対応を取った。新型コロナウイルス感染状況が夏ごろから再度悪化したこともあって、多くの高校が申込み後にキャンセルしたため、最終的な実施件数は 5 件（2019 年度：42 件、2018 年度：43 件）となった。

## 2.2 高校で開催するイベント

高校の生徒を対象とする大学説明会・進学説明会が主になる。多くの説明会では、専門業者（広告代理店、教育産業、新聞社等）が仲介する形で高校が実施主体となり、大学教職員が大学の概要説明や進路に関する講演等を行う。

### 2.2.1 生徒対象の大学説明会・進学相談会

2020 年度において本学 AC では対面による説明会を原則実施せず、Web 会議ツールを利用したオンライン説明会を実施した。実施件数は 58 件（2019 年度：76 件、2018 年度：64 件）であった。春先に出された緊急事態宣言の影響で、高校での実質的な授業の再開が 6 月以降であったことを勘案すると実施件数の減少はやむを得ない。しかしながら、オンラインによる実施となったため、これまで遠方であることを理由にして説明会への参加を見送っていた高校でも、

説明会を実施できた。

### 2.2.2 教員対象の大学説明会・入試説明会

本学 AC では生徒対象の説明会に加えて、以下の 2 形態で高校教員を対象とした説明会を実施している。2020 年度においては生徒対象の説明会と同様に、Web 会議ツールを利用したオンライン説明会を実施した。

(1) 複数大学と複数高校との連携による教員対象の合同説明会

基本的には高校主導による共同開催になる。都道府県の教育委員会が主催したり、地区の進路指導協議会等が主催したりするなど、都道府県によってその形態は様々であるため、大学側の代表者と高校側の代表者が協議して実施方法を決めていき、参加高校・大学を選定あるいは募集して実施している。2020 年度の実施件数は 5 件（2019 年度：6 件、2018 年度 3 件）であった。

(2) 本学と単独高校または複数高校との連携による教員対象説明会

主に長野県内の単独高校、あるいは複数の高校関係者が所属している地区の進路指導部会等を対象に実施する。2020 年度の実施件数は 4 件（2019 年度：6 件、2018 年度：1 件）であった。

## 2.3 高校を除く学外で開催するイベント

高校や大学の外部で開催される進学相談会が主となる。基本的には専門業者が主体となって、大規模イベントスペース、ホテル、公共施設等で開催され、各大学の担当者が各大学のブースで個別相談を行う。

### 2.3.1 業者主催

2020 年度では、イベントスペース等で実施されるほとんどのイベントが中止となった。新型コロナウイルス対策がなされた上で実施された場合でも、原則 Web 会議ツールを用いた個別相談や大学の概要説明を行った。最終的な実施件数は 4 件（うち対面 1 件、2019 年度：14 件、2018 年度：14 件）であった。

### 2.3.2 本学 AC 主催

外部でのイベントが中止になっていることを受け、本学 AC では、それに代わるイベントとして新たに Web 進学相談会を開催した。表 3 にその概要を示す。このような相談会は今まで全く開催したことがなく、翌年以降のためのデータを多く集める必要性もあったことから、1 日の申込者が 1~2 名であったとしても、申込者が第 1 希望日として登録した日に実施した。また、1 つの高校で 5 名以上の相談希望者がいる場合は、高校教員と相談した上で、高校一括で相談に応

表3 Web 進学相談会の概要

実施日時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則、平日で週3日程度実施</li> <li>・ 各日16時から18時</li> <li>・ 1名あたりおよそ20分</li> <li>※高校からの要望に応じて、高校一括対応も実施</li> </ul>
実施方法	Google Meet を利用、申込者にメールで実施日時及びミーティング URL を送信
申込方法	前週の木曜日までに大学ホームページ (Google Form 利用) から申込み
申込時の記入内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 氏名</li> <li>・ 出身都道府県</li> <li>・ 所属校 (卒業校) 名</li> <li>・ 学年等 : 1, 2, 3 年または既卒</li> <li>・ メールアドレス</li> <li>・ 緊急連絡先となる電話番号</li> <li>・ 相談希望学部 (複数選択可)</li> <li>・ 出願予定の入試区分</li> <li>・ 相談分野 (後述, 複数選択可)</li> <li>・ 相談希望日 (第1・第2希望)</li> <li>・ その他 (質問など)</li> </ul>
相談分野	入試方法, 選抜状況, 生活環境, 進路, 資格, 寮, サークル, 奨学金, 学費
対応者	相談は AC 教員, 日程調整は学務部入試課員が担当

表4 県外高校教員対象説明会の実施概要

実施日時	10/8(木), 10/9(金), 10/22(木), 10/23(金), 10/29(木), 10/30(金)の各日16:30~18:00
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Google フォームで参加申込を受付</li> <li>・ 申込者に Zoom ミーティング URL 等を送信</li> <li>・ 申込者に大学案内・学部案内・本説明会の資料等を郵送</li> <li>・ 関東エリア (2 回), 東海エリア (2 回), 甲越・北陸エリア (1 回), 近畿エリア (1 回) に分けて実施</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学・学部概要説明と令和2年度入試結果説明 (50分)</li> <li>・ 令和3年度入試概要説明 (20分)</li> <li>・ 質疑応答・情報交換 (自由参加)</li> </ul>
対応者	当日説明, 参加者管理ともに AC 教員が担当

じた。Web 進学相談会は5月中旬より開催し、2020年度の参加人数は延べ546名(うち高校一括:12校183名、いずれも長野県内高校)となった。

また、既報(一之瀬ほか、2021)のとおり、本学ACでは、高校教員対象の入試説明会を2018年度よ

り実施している。これまで、群馬県、埼玉県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、静岡県、愛知県で実施していたが、2020年度は表4に示す通りすべてオンラインで実施し、対象エリアも関東地区全域および近畿地区を追加拡大した。参加者は6日間合計で73名(2019年度:53名、2018年度:73名)であった。

## 2.4 高校訪問

生徒と直接会わない入試広報活動としては、前述の説明会の他に高校訪問が挙げられる。受験生が国立大学に出願する際は、おおよそ大学入学共通テスト終了後に受験産業が予想する各大学のボーダーライン(大学入学共通テスト自己採点結果から受験産業が予想した合格率50%程度のライン)や、模擬試験での大学ランク(前年の各大学の合否結果と模擬試験の偏差値から各大学をランク付けしたもの)を利用する。受験校を決定する過程においては受験生本人の意思が最優先となる。とはいえ、ボーダーラインや大学ランク等の情報をもとに生徒に対して進路指導を行い、最終的に三者面談等を実施する高校教員の影響も大きい。そのため、高校訪問も行っている(永野・門馬、2011)。その際、高校現場での情報収集も重要な目的となる(西郡・藤田、2011)。

本学ACでは、例年、長野県内高校を中心に最大で年4回(4月、7月、9月、12月)訪問しているが、2020年度は12月に1回だけとなった。

## 3 2020年度入試広報活動についての考察

### 3.1 知見

2020年度の入試広報活動は、2.1節で述べた「本学で開催するイベント」を除くと基本的にはオンラインによる実施となった。

ミニOCについては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響がある中で、現地で対面実施したことを、参加者が高く評価していた。具体的には、ミニOC終了後に回収したWeb上アンケート(回収率36.8%)において、ミニOCに参加して「良かった」または「とても良かった」と回答した割合が90%を超えた。しかし、大学キャンパスでの開催ということで、ミニOCにおけるキャンパス見学については、参加者側から研究室見学や学生との懇談を望む意見もあった。

オンラインで実施した様々な説明会等については、高校の通信環境の脆弱さが露見したといえる。特に、春先に緊急事態宣言が発令された頃は、Webカメラやマイクを用意していない参加者も多くおり、通信環

境が十分に整っていないこともあってインターネットに接続（あるいは Web 会議ツールで接続）できない参加者も多くいた。専門業者が仲介する説明会では、通信環境は改善されていたものの、本学を志望する生徒だけではないので、入試広報活動の効果は薄い。また、一般的な Web カメラを利用した説明会では、生徒の顔を見ながら説明を行うことが難しいため、メリハリをつけて説明することが難しいという知見も得られた。通信環境は徐々に改善していることから、今後は、高校から直接依頼を受ける説明会を中心に対応していく（森川ほか、2020）方向性もある。

教員対象説明会は Web 上での開催となったが、実施後のアンケートではおおむね高い評価を得ることができた。ただし、教員対象説明会の主たる目的が情報提供と意見交換による情報収集であったにも関わらず、参加者から意見がほとんど出なかったため、情報収集がほぼ成立しなかった。また、高校教員は学校から参加する機会が多く、校務や生徒指導をするため中座する場合も散見された。そのため、校外での実施に比べて集中できない環境にあるといえる。実際、実施後のアンケートにおいても、外部会場での実施を求め意見が見られた。

### 3.2 2021 年度入試の志願状況

本学では、2019 年度入試よりインターネット出願を開始しており、出願時に入試広報活動に関するアンケートを実施している（一之瀬ほか、2021）。2021 年度一般選抜および学校推薦型選抜の志願者において、アンケート項目の少なくとも一つに回答した者は全体の 86.8%（2020 年度入試：84.2%，2019 年度入試：84.1%）であった。

2021 年度入試においては、通常の入試広報活動がほとんど行われず、前述の新たな取り組みを行ったため、それに関係する項目をアンケートに追加している。森川ら（2020）は高校ガイダンスで接触した高校生の志願および入学の状況を調査し、ガイダンスでの接触は入試広報活動として一定の効果があったと述べている。このことから、ここでは、Web 進学相談会およびミニ OC の効果を検証した。

表 5 は、2020 年度に実施した Web 進学相談会やミニ OC の参加者数と 2021 年度入試出願者数とを比較したものである。同じ参加者が複数の入試区分に出願していることもあるため、未出願率を考慮すると、Web 進学相談会（公開）に参加した生徒の出願率は 51.3%，同（高校一括）が 51.1%であり、ミニ OC は 34.0%であった。また、同じ志願者が複数の Web 進学相談会やミニ OC に参加していることもあるため、全志願者に対する未参加率から算出したところ、一般選抜（前期）出願者のうち Web 進学相談会あるいはミニ OC に参加した者の割合は全体の 6.8%，一般選抜（後期）で 3.7%，学校推薦型選抜 I（大学入学共通テストを課さない）で 31.7%，学校推薦型選抜 II（大学入学共通テストを課す）で 31.1%であった。村松ほか（2008）や森川ほか（2021）は相談会参加者の約 3 分の 1 が出願したと報告したが、本学 Web 進学相談会では出願率が 51.2%であった。また、森川ほか（2021）は、総志願者全体における相談会参加者の割合を 2.9%と報告したが、本学 Web 進学相談会では 4.9%（=342/7039）であった。さらに、森川ほか（2017）は OC 参加者の出願率は 20%台後半と報告したが、本学ミニ OC 参加者の志願率は 34%であった。

表 5 2020 年度 Web 進学相談会・ミニ OC の参加者と 2021 年度入試出願者（人）

	高 3・既卒 参加者	一般前期 出願者	一般後期 出願者	学校推薦 I 出願者	学校推薦 II 出願者	未出願者
Web 進学相談 (公開)	306	75 (24.5%)	33 (10.8%)	61 (19.9%)	35 (11.4%)	149 (48.7%)
Web 進学相談 (高校一括)	182	53 (29.1%)	30 (16.5%)	29 (15.9%)	26 (14.3%)	89 (48.9%)
ミニ OC	467	128 (27.4%)	53 (11.3%)	88 (18.8%)	44 (9.4%)	308 (66.0%)
未参加		3,193 [93.2%]	2,724 [96.3%]	336 [68.3%]	204 [69.9%]	
全志願者		3,425	2,830	492	292	

注) ( )は高 3・既卒参加者に対する割合、[ ]は全志願者に対する割合

表 6 2020 年度 Web 進学相談会・ミニ OC に対する参加者の評価 (人)

	一般前期 出願者	一般後期 出願者	学校推薦 I 出願者	学校推薦 II 出願者
Web 進学相談 (公開)	21 / 75 (28.0%)	4 / 33 (12.1%)	25 / 61 (41.0%)	6 / 35 (17.1%)
Web 進学相談 (高校一括)	9 / 53 (17.0%)	2 / 30 (6.7%)	8 / 29 (27.6%)	4 / 26 (15.4%)
ミニ OC	42 / 128 (32.8%)	12 / 53 (22.6%)	34 / 88 (38.6%)	10 / 44 (22.7%)

注) Web 進学相談会あるいはミニ OC に参加し、かつ本学を志願した者のうち、インターネット出願時アンケートで「本学の情報を得る上で役に立ったもの」について、Web 進学相談会あるいはミニ OC を 1 位～3 位に挙げた者の比率。

表 6 は Web 進学相談あるいはミニ OC の参加者かつ志願者で、インターネット出願時アンケートの「本学の情報を得る上で役に立ったもの」の 1 位～3 位として、Web 進学相談会あるいはミニ OC を挙げた人数と選択率を示したものである。これを見ると、選択率が 20%を超えているのは、Web 進学相談 (公開) に参加し、一般選抜 (前期) に出願した者で 28.0%、学校推薦型選抜 I で 41.0%、Web 進学相談会 (学校一括) に参加し、学校推薦型選抜 I に出願した者が 27.6%であった。また、ミニ OC の参加者については、すべての入試区分で 20%を超えた。様々な情報源がある中で、参加者の選択率が高く、入試情報としての有用性を高く評価していることがわかった。

本章で示した結果は、いずれもコロナ禍において高等学校が休校になるなど限られた情報しか入手することの出来ない特殊な状況下において得られたものである。そのため、先行研究と単純に比較してその効果を示すものではないものの、2020 年度の新たな取り組みとして実施した Web 進学相談会やミニ OC は、本学の情報を提供する入試広報活動として一定の効果があつたことが伺えた。

#### 4 まとめ

本稿では、コロナ禍における本学 AC の入試広報活動について報告した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出る前は、高校に対してオンラインによる説明会等の実施を提案しても、当時の通信環境等を考えれば受け入れてもらえなかつたであろう。しかし、2020 年度に緊急対応的に実施したオンラインを中心とする様々な取り組みに対しては、高評価を得ることができた。例えば、2.3 節(2)で述べた高校教員対象の入試説明会でのアンケートでは「コロナの影響もあり、

直接大学に伺って説明を聞くのは少々難しい状況だと思うのでオンラインでの開催は非常に助かりました。お忙しい中、準備していただきましてありがとうございました」や「なかなか現地に向かうことが難しかったため今回のオンライン開催はとても助かります。来年度もぜひ現地での開催と並行して行っていただきたい」などの回答があつた。また、3 章で示した通り、オンラインによる説明会等には情報提供という面で一定の効果があることが分かった。ただし、この結果はコロナ禍前の入試広報活動を否定するものではない。従来の良い部分は継承し、新たな可能性のある入試広報活動をハイブリッドで実施し、より効果的な広報活動を実施していくことが今後必要になってくると考えられる。

本稿で示した結果は、コロナ禍に加え、いわゆる新入試が始まる特殊な状況下で得られたものである。しかしながら、表 5 で示したように、Web 進学相談会の参加者の約半数が本学に出願している結果が見られた。今後、本学 AC では同様の取り組みを続けていく予定であり、併せてインターネット出願時アンケート結果を用いた入試広報活動の効果検証を行っていく予定である。

#### 参考文献

- 一之瀬博・木村 建・海尻賢二・平井佑樹 (2021). 「信州大学 Web 出願時アンケート結果を用いた志願者動向分析—出願大学決定における高校教員の影響」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 299—305.
- 森川 修・山田貴光・古塚秀夫 (2017). 「オープンキャンパス参加者の入試動向—鳥取大学の事例—」『大学入試研究ジャーナル』 **27**, 149—154.
- 森川 修・山田貴光・小山勝樹・小倉健一・古塚秀夫 (2020).

- 「高校内ガイダンスが入試動向に及ぼす影響—鳥取大学の事例」『大学入試研究ジャーナル』**30**, 140—145.
- 森川 修・山田貴光・小山勝樹・小倉健一・古塚秀夫 (2021). 「会場形式進学相談会が入試動向に及ぼす影響—鳥取大学の事例—」『大学入試研究ジャーナル』**31**, 345—350.
- 村松 毅・寺下 榮・田中 勝 (2008). 「「対面型」入試広報の効果測定に関する調査<総括>」『大学入試研究ジャーナル』**18**, 1—6.
- 永野拓矢・門馬甲兒 (2011). 「“変わる高校”に即した大学広報について—地方国公立大学による高校訪問の現状と課題」『大学入試研究ジャーナル』**21**, 207—212.
- 西郡 大・藤田修二 (2011). 「入試広報および入試改善に向けた情報収集—高校訪問活動から得られた知見」『大学入試研究ジャーナル』**21**, 219—224.
- 大竹洋平 (2019). 「入試広報活動の戦略策定に関する論点整理—入試データベースの利活用および大学組織における連携を題材として」『大学入試研究ジャーナル』**29**, 277—284.
- 高木 繁 (2014). 「東海・北陸地区国立大学—入試広報の取組⑦—参加者および相談者からみた進学相談会の分析—」『大学入試研究ジャーナル』**24**, 155—161.